



弟国宮成立千五百年記念フォーラム

「継体期の王権構造と地域社会」が開催されました

●日時 平成30年8月4日（土）正午～午後5時

●場所 イオンモール京都桂川3階 イオンホール

●概要 今から1500年前の西暦518年、^{けいたい}継体天皇により「^{おとくにみや}弟国宮」という都が乙訓地域に造られたと『日本書紀』に記されていますが、その間の国内政治に関する記録は全く残されていません。

本フォーラムでは、継体天皇の時代とオトクニ（弟国・乙訓）についての理解を深めるため、5・6世紀の政治社会の変化等についての講演や、乙訓地域の集落・生産遺跡の調査研究成果の報告などが行われました。

●内容

○講演会

「列島社会の変動と継体朝」今津勝紀 さん（岡山大学教授）

「王権中枢とオトクニ」菱田哲朗 さん（京都府立大学教授）

「屯倉の設置と淀川流域」網伸也 さん（近畿大学教授）

継体期における政治社会の変動や弟国宮についての考察など、各専門家から説明がありました。

○基調報告

「集落・生産遺跡からみた5・6世紀のオトクニ」

古閑正浩 さん（大山崎町教育委員会）、中島皆夫 さん（長岡京市埋蔵文化財センター）、梅本康広 さん（向日市埋蔵文化財センター）

乙訓2市1町の文化財担当部署から、各地域における5・6世紀に作られた遺跡に関する調査報告と弟国宮との関連性について説明がありました。

○討論

「継体期の政治・社会とオトクニ」

